

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070401932
法人名	医療法人貞元内科医院
事業所名	グループホーム馬借
所在地 (電話番号)	北九州市小倉北区馬借1丁目6番40号 (電話) 093 - 551 - 0803

評価機関名	(株)アーバンマトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年8月9日	評価確定日	11月21日

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 15 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	6.4 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 4階建ての1階～4階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	(光熱費) 15,500円	
敷金	有(250,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	200,000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		1,333円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	7名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 81.8歳	最低	66歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	貞元内科医院 / 市立医療センター / 清水内科 / はしもと歯科
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くには商店街や市場がある賑やかな通りに立地しているため、利便性が高く、周辺には様々な施設が整っている。グループホームの理念である「和を重んじ皆で明るく楽しい共同生活を送る」ことを全職員が頑張っており日々実践している。また、入居者からも日々楽しく生活している様子が感じられる。玄関には狭い空間を工夫して季節の花が植えられ季節感を感じられる環境づくりを心がけている。毎月多彩な行事が計画され、楽しく暮らせるように配慮がなされている。家族にも行事の案内を送り家族も一緒に楽しめるように計画されている。毎月1回は入居者の様子を写真付きの「便り」で送られている。入居者の笑顔からも伺えるように安心して生活ができるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査では記録の書き方の工夫・トイレの手拭きの改善が課題となった。記録は入居者の時間ごとの詳細な記録が書かれている。トイレの手拭きも使い捨ての物を使用するように改善している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の課題解決に向けて取り組まれてきた。入居者の個人個人の詳細な記録を書くことが負担となっているため、記録の方法・工夫が今後の課題となっている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開かれているが、議題がサービスに関することや取り組みに関するだけでなく、事例検討会のような内容になっている。事例を通してグループホームの理解を高めたいと考えておられるが、グループホーム全体の問題としてテーマを設定し、運営推進会議で意見交換などを行うことが求められる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族へは毎月1回定期的に写真付きで、日常の様子や行事案内やグループホーム便りを送っている。運営推進会議には必ず家族の参加をお願いしているので意見や苦情などを聞く機会にもなっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	周囲は商店街や市場があり、多様なお店があり、散歩や外出などを利用して交流できる機会がある。現在は、散歩に出かけた時には、地域の人が声をかけてくれるような関係も築き、祭りの時には近くまで出かけて行き、ふれあい・交流ができるようになっていく。地域との関係も出来てきつつある状況である。今後は、入居者の成育歴を振り返りこし、周囲の商店街や市場を活用して地域との関係づくりをしていくことや地域の認知症の介護の相談に対応するなど専門性を活かした地域との関係づくりが望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を掲げて毎日のサービス提供はなされている。平成18年の法改正により理念は地域密着型サービスとしての役割が求められ、これまでの理念に加えて地域密着型サービスの役割を理念につくりあげていくことが求められる。また理念は認知症で統一されることが求められる。		現在の理念4項目に地域密着型サービスの役割を目指した内容が求められ、「地域住民との交流の下で」など、果たすべき役割を反映した理念の見直しが求められる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関に掲示しており、職員が理念の実現に向けて意識して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在は地域の保育園とは行事を通じての交流はある。また地域の祭りにも出かけて行き地元の人々との交流を図っている。また、今年から運営推進会議に町内の方に参加していただき、地域の方の理解を高めるように努めている。今後は「食事会」や「お茶会」など、地域の方々を招く企画の実現に期待したい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価の改善項目を全職員で検討し、記録類が前回の課題をふまえ、充実したものになっている。しかし、職員の負担も大きく、今後は、業務の中で簡素化され、効果的な記録の取り方をされると更に充実したものになると思われる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の家族の方にも必ず参加していただき現在の問題点等について意見交換し、日々の実践の中に活かしていけるよう取り組んでいる。事例を通して認知症の理解を高める努力をされているが、事例ではなくグループホーム全体の問題をテーマに掲げ、意見交換や地域との交流促進など幅広く取り組まれることが求められる。		運営推進会議の目的をよく考えたテーマを抽出し、入居者やサービスの実際等について意見交換を行い、サービスの向上に活かしたり、地域との交流促進を図るなどテーマの設定の検討が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との行き来はないが地域包括支援センターとは連絡を取り対応している。今後は、困った事やわからない点があれば、積極的に行政に相談にいきたいと考えている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護や成年後見制度については講習会などに参加したり勉強会も実施している。入居者の中には実際に利用している人もいるので活用できるように支援している。成年後見制度に止まることなく、更に人権全般や守秘義務について幅広いテーマについて研修を行ってほしい。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、家族に定期的に入居者の様子をお知らせするために写真付きでグループホームの「便り」や行事の案内を送っている。体調の変化があった時などには家族に必ず連絡をとっている。金銭管理の報告も個々に行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、家族の方が2名、必ず参加されるので、その時に意見を聞くようにしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在は職員の移動は無いので利用者がダメージを受けることは無い。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	性別・年齢等で採用から排除するようなことは行っていない。職員の社会参加や自己実現が出来るように配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者の人権を尊重しながら、日々のサービスの実践に取り組んでいるが、転倒の危険が大きく、入居者のやむを得ない場合に限り、家族から同意書をもらい身体拘束をすることがある。		夜間の転倒防止に向け、泌尿器科など専門医の診察を受け、症状の緩和に向けて薬で調整を図っている。転倒防止のための身体拘束は行わない方針を立て、改善に向けて取り組んでいる。
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	社会福祉協議会の研修には必ず参加している、それ以外の研修にも参加できるように支援している。職員の能力アップやケアの課題に向けた職員の意向も取り入れた研修の企画・実施を期待したい。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会に入ったので、これからは同業者との勉強会や、活動を通じてサービスの質の向上に取り組んでいく予定である。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前に見学などを行い、家族には問題をよく聞き、問題に対しての解決策を話し合いながら、入居者の不安を取り除き、次第になじみながら暮らしていけるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は入居者と接する時は、常に家族と思って接しており、昔話や好きなこと、得意なこと、利用者の話が弾む内容を引き出すことに努めている。常に入居者の立場に立った支援を行っている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	出来るだけ一人ひとりの思いや暮らし方・希望・意向の把握に努めていくように努力している。		来年度はセンター方式の勉強をして利用者の全体像の把握に努めていき、それをプランに反映させるために現在のプランの見直しをしていくつもりである。入居者の思いは日々の生活の中から気づくことが多いので、その気づきを受けとめることが重要になると思われる。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族には日ごろのかかわりの中で、意見を聞き反映させるようにしている。職員全体で意見交換やミーティングを行い、介護計画の作成をしている。		入居者の成育歴や生活歴を把握をすることが求められ、家族からも成育歴や生活歴を引き出すことが求められる。それらをアセスメントの中で記録し、入居者の思いや意向にそったケアを検討し、それらを介護計画に反映し実践に結びつけることが望まれる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	定期的に見直しをしている。状態が変化した場合に関係者と話し合いをし現状に即した計画を立て直している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	本人・家族の意向や状況に応じて、同法人における理学療法士が行う体操教室へ通うなど機能訓練を受けることができる。また、マッサージ師の来訪サービスがあり、個々の満足を高めるように支援している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診支援をしている。家族が同行して受診できない人や多忙・遠方で家族が対応できない方は、職員が受診を支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	ターミナルケアは検討中である。重度化して治療が必要な人は、併設の医院で治療を行うことができる。家族や弁護士と終末期に関して話をしており、職員間で学習を重ねていく方向で検討している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日々のかかわりの中でも、入居者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけには注意している。記録の取り扱いも十分に注意している。今後はプライバシーについて、入居者の尊厳・個人情報の取り扱いといった多様な観点から再確認を期待したい。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。外出や行事の参加は本人の希望にそった支援が出来るようにしている。今後は、更に「個別性」を重視した支援が期待される。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事は準備など出来る方は手伝ってもらっている。職員は一人ひとりの嗜好を理解しており、入居者の様子を見ながら楽しく食事が出来るよう雰囲気づくりも大切にしている。食事内容は種類も豊富で味付けも良かった。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴日は週2回と予備日を1回とっている。必要に応じてシャワー浴を行っている。現在週3回の入浴日を検討中である。入浴を拒む入居者が多く、入居者が「入浴の楽しみ・意義」を見いだせる支援を期待したい。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の趣味や生きがいを見出し、張り合いや喜びが見出せるように支援している。手芸の好きな人には手芸をさせたりしている。また、誕生会などを催し楽しんでもらっている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	毎日の散歩や行事を通して近隣の施設などに外出している。希望者は買い物を楽しんでもらうように支援し、お金も自分で支払ってもらっている。また、外食も楽しんでもらうように支援している。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	鍵の弊害は理解している。日中は職員が目が行き届くので玄関には鍵をかけていない。場所的なことを考えると街なか立地のため、鍵をかけないと危険な面が多いが、鍵をかけないケアを実践している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	避難訓練は年2回実施している。入居者の中に喫煙する人はいない。隣の人とは交流があるので協力は得られる関係にある。避難先・避難経路など職員で確認しておくことが望まれる。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	毎日の献立は栄養バランスを考えて減塩食となっている。糖尿病の人には量や甘いものは減らしている。毎食毎に水分が十分確保できるように支援している。個々の食事量や水分量はチェック記録されている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	玄関には季節感が感じられるように季節の花が植えられている。共用空間には入居者が居心地よく過ごせるようにテーブルやソファが配置されている。トイレは入居者の身体状態に応じて手すりが設置されている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は使い慣れた物や好みの物が持ち込まれ、入居者が居心地よく過ごせるように配慮されている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			